



**YANMAR**



# CSR報告書 2021

ハイライト版

ブランドステートメント

# A SUSTAINABLE FUTURE

テクノロジーで、新しい豊かさへ。

## 編集にあたって

CSR報告書は、ヤンマーグループを取り巻くさまざまなステークホルダーの皆様へ、当社グループのCSRに対する考え方や取り組み状況、2020年度の実績を報告し、双方向のコミュニケーションを通じて活動内容の向上につなげることを目的に毎年発行しています。

ハイライト版は、当社ウェブサイトの「CSR・環境」ページに記載されている情報から、「A SUSTAINABLE FUTURE」の実現に向けた製品・サービス、事業活動の具体的な貢献事例を中心に抽出し、4つのVISIONごとに再編集しています。

ウェブサイトの情報は、当社グループにとっての重要性と社会にとっての重要性の観点から選定し、ESG（環境・社会・ガバナンス）に沿って記載しており、数値・データ等の詳細や過去の活動内容なども報告しています。併せてご覧ください。

### 参考にしたガイドライン等

環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」  
GRI サステナビリティ・リポーティング・スタンダード  
ISO26000

### 報告対象時期

本報告書の活動内容、データは、2020年度（2020年4月1日から2021年3月31日）実績を原則としていますが、一部には、2021年度の事項についても報告しています。

### 報告対象組織

基本的には、ヤンマーグループ全体とします。特定のグループ会社に限定される事項の報告については、本文中にその旨を明記しています。

### 報告書発行

2021年10月  
（次回発行予定：2022年9月予定）

### CSRウェブサイト

CSR活動の詳細をデータとともに  
網羅的に開示  
<https://www.yanmar.com/jp/about/csr>

### 本冊子 ハイライト版

ASFの実現に向けた製品・サービス、事業活動の具体的な貢献事例を中心に報告

## CONTENTS

02

トップメッセージ

04

事業フィールド

06

「A SUSTAINABLE FUTURE」の実現とSDGsへの貢献

09

VISION01

省エネルギーな暮らしを実現する社会

13

VISION02

安心して仕事・生活ができる社会

19

VISION03

食の恵みを安心して享受できる社会

23

VISION04

ワクワクできる心豊かな体験に満ちた社会

29

第三者意見

31

企業概要／財務ハイライト

### 表紙の画像について

ヤンマーグループ社内報「ECHO」において、「A SUSTAINABLE FUTURE」で掲げる4つの未来像のいずれかをテーマにした「絵画・フォトコンテスト」企画の最優秀賞受賞作品を掲載しています。

## Top Message

トップメッセージ



代表取締役社長 兼 CEO

山 密 健 人

# “ONE YANMAR”で時代の変化に対応し、 “新しい豊かさ”を生み出していきます

## コロナ禍という大きな試練

新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大により不自由な生活を余儀なくされている皆様、罹患された皆様にお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、最前線で治療や予防に尽力されている医療従事者の皆様に心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

ヤンマーグループでは、社員とその家族の安全や健康に最大限の配慮を払いつつ事業継続に努めています。また、少しでも皆様のお役に立てるように海外の感染拡大した一部の地域においては、当社グループのトラクターや発電機を提供し、現地の当局と協力して消毒作業を実施しました。

新型コロナウイルスは社会全体へ大きな影響を与える一方、デジタル化を加速させるなど社会のパラダイムシフトをもたらしました。私たちはコロナ禍という大きな試練に立ち向かうために、グループ各社が一体となり“ONE YANMAR”として構造改革を進めることで業績への影響を最小限にとどめるとともに、デジタルツールを活用したオンライン会議の実施など業務の効率化を進めています。

## グループ一体となり、社会課題の解決に貢献

コロナの影響に迅速かつ柔軟に対応すると同時に、中長期の成長のための投資も行っています。ブランドステートメントである「A SUSTAINABLE FUTURE テクノロジーで、新しい豊かさへ。」が示す通り、持続可能な社会の実現に向けて、世界全体で懸念されているエネルギー需要の増加、食料不足、さらに気候変動など多岐にわたる社会課題を解決するための事業を推進しています。たとえば、船用事業においては、パワートレインに船用水素燃料電池システムを採用したボートの製品化に向け、実証試験を展開しています。また、エネルギーシステム事業では、酪農家とのコラボレーションによるバイオマス発電システムの導入により、これまでは処分していた家畜排泄物を再生可能エネルギーとして有効利用し、地域環境の改善に貢献しています。これらは一部の事例ですが、こうした事業活動を通じて社会課題の解決、さらには国連が採択した「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献して参ります。

また、世界的な脱炭素化の流れのなか、日本政府の方針として打ち出された「2050年カーボンニュートラル」、ひいては「2030年の温室効果ガス削減目標」を見据え、ヤンマーグループ一体となり、脱炭素社会の実現に貢献できる存在でありたいと考えています。

## 顧客価値創造企業へ

ヤンマーは、社会のパラダイムシフトに合わせて、“モノづくり”企業から“課題解決”企業へ、さらに“顧客価値創造”企業へと進化することを目指しています。その実現に向けた施策の一例として、グローバルなサービス拠点であるヤンマーシナジースクエア (以下YSQ) の運営を2020年10月より開始しました。

YSQには、「稼働データとお客様の声」が集まるリモートサポートセンターが設置され、お客様とグループ各社をつなぐ役割を果たしています。お客様には稼働データをベースに有益な提案を差し上げると同時に、お客様からの声を集約し、各事業にフィードバックすることでお客様に喜ばれる商品・モノづくりに生かしていくことができます。さらには、遠隔監視データ分析や故障予知、遠隔でのサービスマンへの技術サポートに加え、将来的にはビッグデータやAIを活用したデータ分析によって、創業以来の想いである「お客様の手を止めない」ためのサービスを時代のニーズに合わせた形で提供していきます。

我々は、モノづくりの領域に囚われずバリューチェーン全体を見渡し、お客様の目的達成をサポートするための課題をみつけ、その解決策となる商品・サービスを提供していきます。また、お客様に寄り添い続けることでお客様の価値を創造する“顧客価値創造”企業になるための努力を続けて参ります。

## 多様な社員の個性を尊重しながら、 “ONE YANMAR”として結束

社員一人ひとりの価値観や個性を尊重し、お互いの能力を最大限に発揮させる環境は、顧客価値創造企業にとっての土台となります。ヤンマーグループでは社員の多様な個性を生かし、チャレンジしながら社会に新たな価値を提供できる組織や環境づくりを目指しています。

このような背景からダイバーシティ推進に向けたポリシー「Diversity For YANMAR」を昨年新たに制定し、多様なバックグラウンドからなる価値観や考えを持つ社員がいきいきと働き、活躍できる環境整備や働き方を柔軟に選択できる制度 (在宅勤務・フレックス勤務等) を拡充しています。

“人間の豊かさと自然の豊かさを両立させる新しい豊かさ”を実現するためには、時代の変化に柔軟に対応していく必要があります。そして、多様な社員の個性を尊重し、グループ全体が“ONE YANMAR”として結束することで、お客様と社会の課題を解決し、新たな価値を提供していきます。

事業フィールド

# ヤンマーグループの事業フィールドは私たちが暮らす「大地」「海」「都市」そのものです

ヤンマーグループが対象とする事業フィールドは「大地」「海」「都市」。それぞれのフィールドでは、創業の原点を受け継ぎ、高品質で高い信頼性を誇るエンジン事業、豊かな食料生産の実現に向けグローバルに展開するアグリ事業、海洋環境との共生を目指すマリン関連事業、省エネルギー技術の多様な展開に取り組むエネルギーシステム事業、多用途の建設機械を提供する建機事業、オリジナルの高い製品を開発するコンポーネント事業など7つの事業が独自の強みを発揮し、多彩なソリューションを展開しています。

■ 小形エンジン

産業用小形ディーゼルエンジンのパイオニアとして、業界トップクラスの商品の生産・販売・開発・サービスを行っています。  
●産業用小形ディーゼルエンジン、ガスエンジン、燃料噴射系精密部品など

■ 大形エンジン

生産・販売・開発・サービスが一体となり、船舶の長い生涯におけるお客様にとってのエンジンの価値(LCV:生涯価値評価)の向上を目指しています。  
●船舶/陸用ディーゼルエンジン、ガスエンジン、ガスタービンおよび関連システム商品

■ アグリ事業

お客様の農業経営のサポートから、ICT等の最先端技術を採用したスマート農業まで、持続可能な農業の実現を目指しています。  
●トラクター、コンバイン、田植機、耕うん機、農業施設、無人ヘリ、関連商材など

■ マリン関連事業

世界中の海のさまざまなシーンに環境性能を兼ね備えた高出力なマリンエンジン、快適性・操作性に優れた漁船やプレジャーボート、水産業を支える海洋設備など幅広い商品を開発・提供しています。  
●マリンディーゼルエンジン、海洋設備製品、FRP製プレジャーボート、小型漁船など

■ エネルギーシステム事業

省エネ・BCPに貢献するコージェネレーションやGHP、非常用発電機などのトータルエネルギーソリューションを実施。バイオマス発電等の再エネ分野にも注力しています。  
●コージェネ、バイオガスコージェネ、GHP、非常用発電システム、ポンプ駆動システムなど

■ 建設機械事業

小型建設機械のパイオニアとして業界をリードしています。世界初の後方超回転機「VIOシリーズ」をはじめ、発電機や投光機などの汎用商品を幅広く展開しています。  
●ミニショベル、ホイールローダー、キャリア、小型発電機など

■ コンポーネント事業

独自の油圧制御・歯車加工技術を基盤にさまざまな駆動システムを開発・製造しています。これらの技術は、農機や船舶などの幅広い分野で活躍しています。  
●油圧機器、歯車、トランスミッション、マリンギヤ、工作機械など

■ 食・住宅設備機器事業

一次産業の持続的な発展と豊かな食生活の創造を目指し、生産支援サービスや食品流通、キッチン等の食空間の提供まで食・住領域におけるソリューションビジネスを展開しています。  
●食材の販売、一次産業生産支援サービス、住宅設備機器販売など

## “農業”を“食農産業”へ

大地 Land

ヤンマーは農業機械の提供を通して、生命の根幹を担う食料生産を支えてきました。将来に向けて持続可能な農業を実現するために、ICTの活用や新たなソリューションの提供によりヤンマーは“農業”を“食農産業”へと進化させていきます。

産業用小形ディーゼルエンジン、トランスミッション、油圧機器、田植機、トラクター、コンバイン、選果施設(トマト)、無人ヘリコプター、キャベツ収穫機、ライスジュレ

## 人と海洋環境との理想的な共生

海 Sea

快適なマリンレジャーや、安全な航海と環境との調和を追求した船舶用エンジン・推進システムの開発、さらに、水産業における漁業の活性化や養殖技術の多面展開など、人と海洋環境との理想的な共生を目指しています。

海水ろ過施設、養殖網水中洗浄機、中小形マリンディーゼルエンジン(業務用)、マリンギヤ、船舶用大形主機関、電気推進システム、中小形マリンディーゼルエンジン(プレジャー)、FRP製プレジャーボート、船舶用大形補機関

## エネルギーの有効活用

都市 City

官民さまざまな施設やビジネス環境、住環境が集積する都市で、再生可能エネルギーの活用や、コージェネによる電力・熱へのエネルギー変換システム、節電に貢献する超高効率ガスヒートポンプエアコン(GHP)など、次世代の街づくりにふさわしいエネルギーの有効利用を目指しています。

コージェネレーションシステム、バイオCP、非常用発電機、GHP、ガスエンジン、油圧ショベル、工作機械

私たちはミッションステートメントの実践と、  
**“A SUSTAINABLE FUTURE”の実現に向け、**  
**事業を通じて直面するさまざまな社会課題の解決に取り組み、**  
**SDGsの達成に貢献していきます。**

ヤンマーグループは、ミッションステートメントで掲げる、生命の根幹を担う「食料生産」と「エネルギー変換」の分野で、世界最先端のテクノロジーを通じて、お客様の課題解決に取り組んでいます。このミッションステートメントの実践こそがヤンマーグループのCSRであり、ブランドステートメント「A SUSTAINABLE FUTURE —テクノロジーで、新しい豊かさへ。—」で描く4つの未来像を実現するために欠かすことのできない理念です。私たちは、ミッションステートメントの実践とブランドステートメントの描く4つの未来像の実現に向けて、事業を通じて直面する社会課題の解決に取り組み、SDGsの目標達成に貢献していきます。

ミッションステートメント

ヤンマーと関連が深い  
社会課題

解決に貢献できるテーマ

人と自然が共存する豊かな社会を創造する。

## MISSION

わたしたちは  
 自然と共生し  
いのち  
 生命の根幹を担う

食料生産とエネルギー変換の分野で

お客様の課題を解決し

未来につながる社会と

より豊かな暮らしを実現します。

## A SUSTAINABLE FUTURE

—— テクノロジーで、新しい豊かさへ。 ——

エネルギー問題



気候変動



労働環境



自然災害



食料問題



労働力の  
慢性的な不足



- ・CO<sub>2</sub>排出量の削減
- ・再生可能エネルギーの推進
- ・省エネルギーの追求
- ・未利用エネルギーの活用
- ・危険な仕事からの解放
- ・作業の省力化、効率化
- ・新たな価値創出による安定的な収入
- ・災害に強いまちづくり
- ・大規模農業への対応
- ・担い手農家の効率化による生産性向上
- ・災害や天候不順による農産物への影響
- ・後継者不足による離農

## 「A SUSTAINABLE FUTURE」が掲げる4つの未来像

### VISION 01

省エネルギーな暮らしを実現する社会



エネルギーの可能性を拡大。安価・安全な動力、電力、熱を、いつでも必要なとき必要なだけムダなく使えること。

### VISION 02

安心して仕事・生活ができる社会



厳しい労働を、快適な労働へ。誰もが気持ちよく働いて安定した収入を得ると同時に、自然とともに心豊かに暮らせること。

### VISION 03

食の恵みを安心して享受できる社会



おいしく安全で栄養豊富な食料を、世界中いつでもどこでも。あらゆる人が、もっと健やかに生活できること。

### VISION 04

ワクワクできる心豊かな体験に満ちた社会



仕事も余暇も心ゆくまでみんなに楽しめる毎日を実現。あらゆる人の生活のクオリティを高めたいこと。

### ヤンマーの企業活動を通じた貢献

関連する主なSDGs



### 事業活動（ソリューション提供）



商品開発    ものづくり    サービス

### CORE TECHNOLOGY

ヤンマーのステークホルダー



お客様

お客様の課題を解決する安全で高品質な商品・サービスを迅速に開発・提供し、お客様に信頼いただけるよう努めています。



従業員

従業員一人ひとりの個性と多様性を尊重し、安全で快適な職場環境づくりと、グローバル人材の育成を進めています。



ビジネスパートナー

国内外の販売店・特約店、サプライヤーとのコミュニケーションを深め、良好なパートナーシップを構築しています。



地域社会

「地域社会と共に歩み、共に生きる」ため、地域の課題解決に向け、住民と一緒にさまざまな活動に取り組んでいます。



環境

持続可能な社会の実現に向け、地球温暖化防止や、資源の有効活用、環境負荷物質の低減、生物多様性に取り組んでいます。

# VISION 01

## 省エネルギーな暮らしを実現する社会

### 目指す姿

エネルギーの可能性を拡大。安価・安全な動力、電力、熱を、いつでも必要なとき必要なだけムダなく使えること。

### VISION-01の社会を実現するために貢献できる主な製品・サービス



#### エネルギーマネジメントシステム

エネルギーの運用状況の把握・分析、適切な省エネ診断により、施設全体でエネルギー使用を最適化し、省エネルギーに貢献します。



#### 産業用ディーゼルエンジン

これまでの産業用小形ディーゼルエンジン事業領域を拡大することを目的に、超低燃費・高出力エンジンを開発。最新の欧州StageV規制にも適合しています。

### 関連する主なSDGs



### VISION-01に関連し解決すべき社会課題



#### グローバル 이슈

##### 気候変動問題

世界の平均気温が2100年に

**2.6 - 4.8°C** 上昇

※IPCC Fifth Assessment Report WG1 SPM (2014)

##### 都市化問題

2050年に世界人口の

**68%** が都市部に集中

※United Nations, 2018 Revision of World Urbanization Prospects. (2018)



#### 個別テーマ

- CO<sub>2</sub> 排出量の削減
- 再生可能エネルギーの推進
- 省エネルギーの追求
- 未利用エネルギーの活用

### 事業活動を通じた貢献



ヤンマーパワーテクノロジー株式会社

### 船舶における水素エネルギーの利活用に向けて 自社製ボートによる 船用燃料電池システムの実証試験を開始

関連する主なSDGs



#### 顧客の課題

船舶業界では、国際海事機関において今世紀中の温室効果ガス (GHG) 排出ゼロを目指す「GHG削減戦略」が採択されるなど、世界的な環境規制強化が進んでいます。また、経済産業省が発表した「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」でも、水素やアンモニアなど使用時にCO<sub>2</sub>を排出しない燃料船開発の技術力獲得が示されるなど、環境負荷の低いエネルギー源や動力源の開発が注目されています。

#### ソリューション

ヤンマーパワーテクノロジーは、水素燃料を利用した将来のパワートレインにおける技術開発の一環で、燃料電池ユニットなどを組み合わせた船用燃料電池システムを開発し、自社製ボートによる実証試験を開始しました。

船用燃料電池システムは、船舶特有の安全要件に対応した設計とし、リチウムイオン電池や推進モータ等を含めたパワーマネジメントシステムも自社開発を行いました。今後はこの技術を応用し、さまざまな電動化商品に展開できると考えています。

自社製ボートには、大電力の電気機器や水素タンクを多数搭載しています。そのため、電気機器から出るノイズの悪影響を極小化したり、座礁や衝突から水素タンクを守るため、デッキ甲板部分を専用形状に作り上げたりする必要がありました。当社のFRP成形や船殻組立に関する高度な技術力がいかに発揮されています。

実証試験は、大分県国東市近海で行われており、自社製ボート (実証試験艇) は、国土交通省の「水素燃料電池船の安全ガイドライン」に国内で初めて正式に準拠した船舶です。現在、実証試験において燃料電池システムの分析と船舶特有の課題抽出、その対策の評価などを行っています。将来的には、2023年の実用化に向け、燃料電池システムの複数台連結による大容量パッケージを開発し、より大型の船舶に対して水素燃料を使用したシステムソリューションの提供を目指します。



船用燃料電池システム実証試験艇



実証試験艇の操舵室



300kW級の船用水素燃料電池システムのイメージ図

#### 提供価値

利用時のCO<sub>2</sub>排出がゼロとなる水素エネルギーを、船舶でも利活用できるようにすることで、2050年のカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。



## ヤンマーエネルギーシステム株式会社

### 未利用エネルギーの温泉廃熱を活用した 小型ORC廃熱発電機を 長野県諏訪市に試験導入

関連する主なSDGs



#### 顧客の課題

長野県諏訪市では以前より、豊かな温泉資源を活用して家庭や共同浴場などに温泉を給湯する事業を行っていました。しかし、年々契約件数が減少傾向にあったことや、温泉資源の新たな活用方法を通じて地域に還元できないか模索していました。

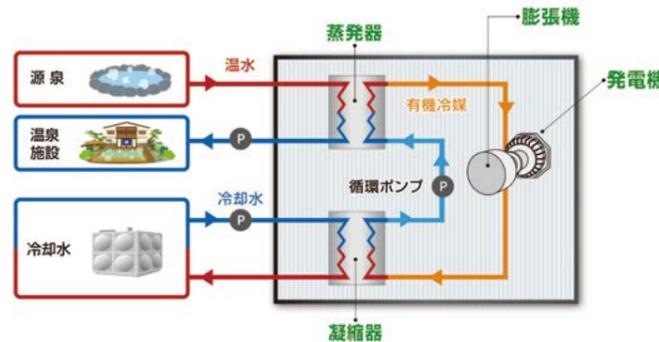
#### ソリューション

ヤンマーエネルギーシステムは、より発電効率の高い商品など環境への負荷が低く、生活を豊かにできる商品づくりを続けており、近年ではトータルエネルギーソリューションとして持続可能な未来へ向けたエネルギーシステムの開発も実施してきました。その活動の一環として10kW未満のパッケージ化された小型のオーガニックランキンサイクル (ORC) 発電機を開発しました。パッケージ化することで施工性の向上や複数台設置が簡易にでき、案件ごとに最適な容量での提案ができます。

こうした当社の商品や取り組みを知った諏訪市からの相談を受け、温泉廃熱を活用した小型ORC発電機の試験導入が実現しました。ORC発電機は、水よりも沸点の低い媒体を活用することで、低温の蒸気や熱水を発電に利用でき、温泉熱や地熱などの有効活用の手法として注目されてきました。

これまでORC発電機は日本国内に限らず開発されてきましたが、地熱活用など大規模なものが多いため、導入先が限られ、また個別の対応が必要となることから、コスト高などの課題がありました。

実証試験は、2020年8月から1年間、諏訪市内のあやめ源湯で実施しています。発電機の発電出力は8kWで、年間の発電量は約7万kWhを想定しています。70~95℃程度の比較的低温の廃熱から発電が可能で、熱回収から系統連系に必要な機器をコンパクトに組み込んだパッケージ発電機です。10kW未満の超小型発電機ですが、連結可能で柔軟に容量対応が可能となります。



温泉を活用した小型 ORC 廃熱発電機システムの仕組み

#### 提供価値

未利用の工場廃熱や温泉熱などを活用することにより、化石燃料由来のエネルギーに比べてCO<sub>2</sub>の排出を抑制でき、気候変動の緩和に貢献できます。日本国内には、温泉をはじめ、工場などでも小規模な熱源が多くあるため、それらを活用した社会的にも経済的にも最適なソリューションをお客様に提供できます。

## CSR活動報告

### 環境

#### 新たな環境ビジョンの策定に向けて

ヤンマーグループは、「パリ協定」および「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標年にあたる2030年時点の到達目標として、2018年7月に「グループ環境ビジョン2030」を策定しました。これまで進めてきた4分野の目標達成に向けて、引き続き各施策に取り組むとともに、地球温暖化対策で新たに設定した「事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量原単位30%削減 (2005年度比)」の達成に積極的に取り組んでいます。

一方、気候変動リスクが年々と高まりを見せるなか、日本政府は2021年4月の気候変動サミットにおいて、2030年の温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減することを表明しました。こうした社会動向を踏まえて、現在ヤンマーグループでは新たな環境ビジョンの策定を進めており、2021年度中に公開予定です。

2021年度からは、2025年度までを対象とした「第五次グループ環境中期計画」がすでにスタートしていますが、新環境ビジョンの公開に合わせて目標や施策を更新する予定です。

量の減少により、前年度と比較してエネルギー使用量は6,081klの減少、CO<sub>2</sub>排出量も11,506tの減少となりました。総量・原単位ともに目標値を達成できましたが、生産量減少にともなうエネルギー効率の悪化と、感染防止のための空調エネルギーの使用量増加等により、原単位は前年度よりそれぞれ3%以上悪化しました。

#### 2020年度目標／実績

	エネルギー使用量 (原単位)	CO <sub>2</sub> 排出量 (原単位)
2020年度 目標	23.6 kl/億円	46.3 t-CO <sub>2</sub> /億円
	2005年度比-15.6%	2005年度比-15.6%
2020年度 実績	19.0 kl/億円	37.9 t-CO <sub>2</sub> /億円

### 製品

#### 製品を通じたCO<sub>2</sub>排出量の削減

##### 製品のライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量の把握

ヤンマーグループは、LCA (ライフサイクルアセスメント) による製品のライフサイクル (原材料の調達から、製造、流通、使用、廃棄まで) における温室効果ガス (CO<sub>2</sub>) 排出量の定量的把握・評価を行い、グループ製品による温室効果ガスの削減 (原単位) を進めています。

今後のスコープ3情報の開示に向け、グループ全事業のLCAデータの把握と環境データ公表範囲の拡大を進めていきます。

##### 製品使用時のCO<sub>2</sub>排出量削減に向けた技術開発

ヤンマーグループは、農業機械や建設機械、空調などの高効率化による低燃費化をはじめ、再生可能エネルギーや燃料電池の活用や水素をパワートレインとした最新技術の開発・実用化により、製品使用時のCO<sub>2</sub>排出量削減への貢献を進めるとともに、環境指向性商品の割合を増やし、ライフサイクルでのCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献してまいります。

### 気候変動

#### 事業活動におけるエネルギーの効率的使用とCO<sub>2</sub>排出量の削減

ヤンマーグループは、国内に展開する全製造事業所において、生産活動に使用する電力や燃料などあらゆる種類のエネルギーを効率的に使用する体制をとるとともに、省エネ設備への更新、試運転効率の改善・エネルギー再利用等の活動を通じて、CO<sub>2</sub>の排出量削減に取り組んでいます。

また、ピーク電力の削減と、自然災害などによる送電停止時の電源確保を目的として、自家発電設備・GHPの積極的な導入を進めています。

2020年までの削減目標は、国内製造事業所においてはエネルギー使用量の総量および効率使用の指標となる原単位で15.6%、CO<sub>2</sub>排出量も同じく15.6%に設定しています (いずれも2005年度比)。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による生産

# VISION 02

## 目指す姿

厳しい労働を、快適な労働へ。誰もが気持ちよく働いて  
安定した収入を得ると同時に、自然とともに心豊かに暮らせること。

### VISION-02の社会を実現するために貢献できる主な製品・サービス



VIO20

#### 後方超小旋回油圧ショベル

本体の後部が車幅から出ないため小回りが  
きき、壁際での作業も後ろを気にせずに作  
業ができる後方超小旋回機。狭小現場での  
安全性や快適性を高めています。



ATG500

#### 非常用発電システム

非常用発電システムは、自然災害などによる  
停電時に、さまざまな設備への電源供給を  
担うことで、人命の安全確保や財産の保護、  
復旧工事などに貢献します。



AY20

### 関連する主なSDGs



### VISION-02に関連し解決すべき社会課題



#### グローバルイシュー

##### 人権問題

推定児童労働者のうちの  
**7,300万人**が  
健康や安全を損なう危険な仕事に従事  
※ILO, World Day Against Child Labor 2018 (2018)

##### 貧困問題

OECD加盟国の相対的貧困の割合は  
平均**11.8%**(2019年)  
※OECD, OECD data, Poverty rate (2019)



#### 個別テーマ

- 危険な仕事からの解放
- 作業の省力化、効率化
- 新たな価値創出による安定的な収入
- 災害に強いまちづくり

## 事業活動を通じた貢献



### ヤンマーグローバル CS 株式会社

「お客様の手を止めない」サービスをさらに追求するため  
グローバルCS拠点「ヤンマーシナジースクエア」が稼働開始

#### 関連する主なSDGs



#### 顧客の課題

ヤンマーグループにおけるグローバルな顧客満足度 (CS) をさらに向上させるためには、「お客様の手を止めない」サービスを追求していくことが重要になります。ヤンマーではSMARTASSIST (農業機械・建設機械向け)、RESS (発電・空調製品向け)、SHIPS SUPPORTER (船舶搭載用エンジン向け) という遠隔監視システムを商品に搭載し、稼働状態の遠隔監視を行っています。遠隔監視によるデータ分析や故障予知をはじめ、サービスマンに対する遠隔での技術サポート、SMARTASSISTなどをご利用中のお客様を支援するシステムサポートデスクなど、最先端のテクノロジーを活用したサービスの開発、提供、共有の実現が必要となります。

#### ソリューション

当社グループはICTの先駆けとして、1984年にエネルギー事業で離島にある発電機の監視を開始し、その後それぞれの事業領域で遠隔監視サービスの展開を進めてきました。2015年にはリモートサポートセンターを設置し、当社グループのすべてのお客様へのトータルサポートを追求。先進的な予防保全型サービスと、「お客様の手を止めない」サービスの実現と、蓄積データの活用による経営改善サポートに取り組んできました。



1階：サービス展示エリア

ヤンマーグローバルCSは、これまでのサービスの進化の実現に向けて、全世界のビジネスパートナーとヤンマーグループとがそれぞれの知見やノウハウを集結させ、相乗効果 (SYNERGY) を生み、未来に向けた新たなサービスソリューションを創出していく場所 (SQUARE) として、ヤンマーシナジースクエア (YSQ) を新設しました。

1階のサービス展示エリアには、ヤンマーグループのサービスの歴史や精神、未来を体感できるコンテンツを数多く展示。2階には、これまで梅田ゲートタワーにあったリモートサポートセンターを移設するとともに、SMARTASSISTをはじめとした遠隔サポートシステムの機能を集約、強化することで、より詳細な情報の管理・分析が行えるほか、引き続き見学ツアーなどの視察も可能となっています。



2階：リモートサポートセンター

3階のバックオフィスエリアには、世界中で取り扱われている補修部品の受発注の集約化や、部品情報管理、ドキュメントの制作や安定供給のための業務などのほか、サービスの効率化を目指したITツールの開発や展開の専門部門を設置しています。4階の社員食堂・会議室エリアでは、ヤンマーシナジースクエアで生産した新鮮な野菜などを使ったバランスのよい食事を提供し、社員の健康面にも配慮



3階：バックオフィスエリア



4階：社員食堂



5階：研修室

しています。5階の研修室では、各種教育研修に対応するため、30名規模の会場3部屋、連結可能な60名規模の会場2部屋を有し、ダイバーシティの観点からフロアの一角には礼拝室も設置しています。

#### 提供価値

お客様のマシンが常に最適な状態で稼働できることで、故障による作業の中断や盗難などの損害を未然に防止し、安心して仕事に集中することができます。それにより、生産性の維持や向上に結びつき、生活の安定化にもつながります。



ヤンマーエネルギーシステム株式会社

## 乳牛のふん尿を有効活用する バイオガス発電システムの導入により 酪農経営の改善をサポート

関連する主なSDGs



### 顧客の課題

生産性の向上に取り組む株式会社本部農場は、新牛舎を建設し、乳牛の飼育頭数を120頭から250頭に拡大することを計画しました。そこで大きな課題となったのが、増頭による乳牛のふん尿処理でした。これまでは堆肥化することで処理していましたが、作業の手間や時間がかかり、燃料費なども大きな負担となっていました。

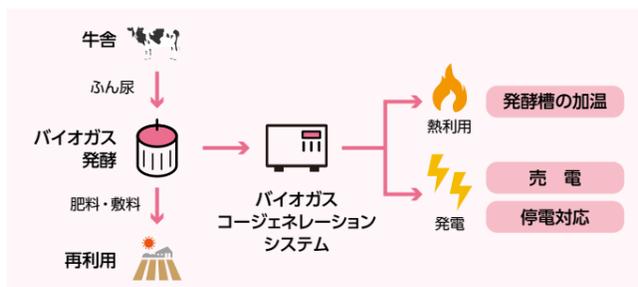
### ソリューション

家畜のふん尿処理の労働負担と処理コストを軽減し、酪農経営のコストダウンを図るとともに、地域と社会に貢献できる循環型農業を目指したいという本部農場の課題解決に向けて、ヤンマーエネルギーシステムはバイオガスコージェネレーションによる発電システムの導入を提案しました。バイオガスコージェネレーションは、国内外問わずさまざまなメーカーから販売されていますが、メンテナンスの面やトラブル時の対応で他社より優れるとの理由で、当社にお声がかかりました。

本部農場には、24.5kWのバイオガスコージェネレーションを2台設置し、乳牛のふん尿から生成されたメタン発酵ガスをエネルギー源として発電します。発電で得られた電力は、電力会社に売電するとともに、熱はプラント内における発酵槽の加温などに利用しています。2021年3月までの1年間の運転時間は1万時間で、その間の発電電力量は10万kWhとなりました。さらに、ふん尿処理の過程で得られる消化液※1は肥料や雑草対策に活用でき、コストダウンにつながります。また、発酵過程から生産した衛生的な再生敷料※2により、乳牛の罹患防止に役立っています。

ふん尿処理の労働負担が軽減され、かつバイオガス発電による売電収入や排熱のエネルギー利用により、酪農経営のコストダウンに貢献できます。

※1 消化液：メタン発酵後のふん尿を、固液分離機等により分離した液分のこと  
※2 敷料：牛舎の衛生を保つために敷き詰めるワラ・おがくず等の総称



バイオガスコージェネレーションによる発電システム



本部農場に導入したバイオガスコージェネレーションと社長の本部博久氏

### 提供価値

ハウス栽培を検討している近隣企業から、本部農場の電気や熱を利用したいという提案が持ち上がるなど、本部農場の新しい取り組みは、地域のいろいろな企業の輪を広げています。今後も、バイオガス発電システムを通じた地域産業の発展に貢献していきます。

## CSR活動報告

### お客様

#### 品質の向上と 安全の確保に向けた方針・体制

##### 製品開発の各段階における 社内独自の品質・安全基準

ヤンマーは、製品の企画・開発、製造、販売、サービスなどの各段階では品質・安全確保に向けた体系的な活動を行っています。特に安全に関しては独自の社内安全基準を定め、国内外の法規制とともに遵守を徹底しています。

新商品開発の各段階でも事前に危険性を評価するリスクアセスメント、複数の視点から設計を審査するデザインレビューなどを実施し、品質・安全の両面から厳しくチェックしています。2020年度から、電動化商品の安全性確保のため、電動化に対応した製品安全基準の強化に取り組んでいます。

また、ヤンマー製品の使用を通じて、お客様をはじめとするユーザーが健康を損なったり、環境破壊につながったりすることを予防するため、「開発ステップにおける品質強化ガイドライン」を制定し、環境破壊・環境基準違反・その他規程違反等について、新商品開発から量産にいたる各フェーズにおいて実行すべきタスクと、各タスクで抽出、是正すべき品質に関するリスクを明確にし、効率的に商品の安定した品質を確保しています。

#### 品質への取り組み

##### リコールへの対応

製品に問題が発生し、処置が必要と判断した場合には、お客様の安全と被害の拡大防止を最優先に製品回収ならびに製品の交換、改修（点検、修理等）を迅速に実施しています。製品リコールに関しては関係機関※1に報告するとともに、ヤンマーのホームページ上に情報を開示し、必要によっては新聞紙上にリコール社告を行い、実施率の向上を図っています。

毎年度、リコールの発生抑制に向けた取り組みを進めていますが、2020年度は8件のリコールが発生し、下記の重点実施事項に取り組まれました。

- 重要品質問題の早期抽出と解決を図るため、市場品質情報システム（SEAQ）を構築。2020年度は、海外の全現地法人に展開するため、システムの設計・開発を実施。
- 事業の品質保証強化のためのシステムツールとして、全事業共通プラットフォーム（AQAS）を構築。
- 実践的な品質教育として、QC検定勉強会を企画・開催。1級から3級までの合格者数は、2020年度は計231名、累計1,509名が合格。

実績（2019年度／2020年度）※2



※1 国土交通省、経済産業省、農林水産省、日本舟艇工業会など  
※2 国交省リコール・改善対策および消費法に基づく製品リコールの報告件数

### 社員の声

#### 海外現地法人における品質問題の未然防止と 品質改善支援に取り組んでいます

当社の品質保証部は、品質問題における源流の原因を追究し、その是正を行うために品質改善活動のグローバル化を推進しています。活動内容としては、海外現地法人と品質情報を共有し、改善事例のグループ展開による品質問題の未然防止、海外現地法人の慢性クレームおよび重要品質問題の品質改善支援などです。2023年度までの目標である神崎グループ連結Fコスト※0.3%以下の達成に向けて、オール神崎グループで取り組んでいきます。



株式会社神崎高級工機製作所  
品質保証部  
品質保証グループ  
グループ長  
太田 徹

※FはFailureの略。品質管理上重要な指標の一つで、製品の品質不良によって発生する費用のこと。



## 従業員

### 人権

#### ハラスメント行為の防止

社員に対しハラスメントに関する対応方針や相談窓口の周知を行い、ハラスメント行為の防止に努めています。ハラスメントに関する正しい知識を習得し、防止対策や相談を受けた際の適切な対応を学ぶことを目的として、例年、新任管理監督者を対象としたハラスメントに関する研修を実施しています。

また、グループ各社においてもハラスメントに関する教育・研修を適時実施しています。2020年度はグループ各社人事部門を対象にハラスメントに関する法改正情報や防止措置についての説明を行い、ハラスメント防止対策の強化を図りました。

#### 新型コロナウイルス感染防止対策に関する取り組み

ヤンマーグループは、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、お客様や取引先、従業員をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様の安全と健康を最優先とし、政府や自治体等の方針に基づきながら感染拡大防止に努めています。

#### 主な取り組み

- ・可能な限りの在宅勤務や時差勤務を全社的に推奨
- ・社内外の会議は、原則リモートで開催
- ・イベントの開催および参加は、原則中止または延期
- ・不特定多数との接触機会が多い大都市圏、および「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」発令地域を往来する外出・出張の原則禁止
- ・会食・懇親会の原則禁止
- ・プライベートでの感染リスク回避の要請
- ・職場における衛生管理の徹底 など

そのほか、各拠点において、パーティションや消毒液の設置、座席のソーシャルディスタンスの確保、各種承認の電子化など、効率的に安心して働ける環境づくりも進めています。

### ワークライフバランスの推進

#### 家庭と仕事の両立を目指し さまざまな制度を有効に活用

育児介護休業等の制度は、利用可能な条件や利用回数など法定以上の内容で整備しています。さらに、積み立て有給休暇制度の充実などにより、家庭と仕事を両立させ、すべての従業員が能力を十分に発揮し、安心して働き続けられるような職場づくりに取り組んでいます。

育児休業を取得し職場に復帰できるようにさまざまな支援をしています。具体的には、女性社員には妊娠中から準備しておくことやそのポイントを解説したハンドブックや、育児に参画する男性社員向けのハンドブック、介護に関心のある社員のためのハンドブックなども用意しています。また、2020年度には男性社員のための両立支援セミナーをオンラインで実施しました。

2020年度はヤンマーホールディングスにおいて、育児休業の利用者数が69名、短時間勤務者数が96名、産前産後休暇取得者数が33名となっており、女性の育児休業からの復職率は94.4%となっています。

また、ヤンマーでは多様な人材の活躍と生産性の向上を目的として、2017年10月より在宅勤務制度を導入しています。在宅勤務制度はフレックスタイム制と併用して活用することができ、従業員はワークライフバランスを考慮した、より柔軟な働き方を選択することができます。今後は、より多くの社員が活用できる制度へと改善を進めていきます。

#### 実績 (2019年度 / 2020年度)



### 健康経営

#### 社員とその家族の健康保持・増進に向けた取り組み

#### 健康経営方針

社員の健康増進を通じ、社員がいきいきと働き、活躍することがダイバーシティ&インクルージョンの実現やエンゲージメントの向上、そして、生産性向上につながりヤンマーグループの持続的成長を実現します。

推進体制と行動目標「KENKO11」はWebサイトをご覧ください (ページ右上のURL参照)。

#### 重点施策

ヤンマーグループにおいては健康経営を進めていくうえで、重点施策を以下の通り定め、さまざまな取り組みを行っています。

#### 1.メンタルヘルスケアの促進

以下を目的として、入社時のセルフケア教育、定期的な管理職へのラインケア教育を実施しています。また、産業医と連携しハビリ勤務を取り入れ円滑な職場復帰にも取り組んでいます。

- ①メンタルヘルス不調の未然防止・早期発見、早期予防
- ②メンタルヘルス不調の重症化予防、再発防止
- ③療養からの円滑な職場復帰

#### 2.積極的な禁煙の促進

生活習慣病や循環器系疾患、肺がんなど、さまざまな疾病の原因となるといわれている喫煙率を削減させるために、禁煙外来費用の補助、毎月22日を禁煙デーとして、情報提供や教育に取り組んでいます。

- ①受動喫煙防止環境の対策
- ②禁煙教育
- ③禁煙支援体制の強化

#### 3.生活習慣病予防対策

ヤンマー健康保険組合と事業所とのコラボヘルスにより、以下3項目の取り組みに重点を置き、健康づくり環境を社員に提供しています。健康診断を有効に活用し、産業医意見聴取のもと2次受診勧奨を行い疾病の早期発見・早期治療に取り組んでいます。

- ①定期健康診断実施 (実施率100%)
- ②2次検診受診における健康管理
- ③コラボヘルスでの健康づくり体制の充実

#### 4.ワークライフバランスの推進

事業所の環境に応じて、ノー残業デーやライトダウンデーの設定、一斉有休取得日の設定、在宅勤務の推進等の取り組みを行っています。社員一人ひとりがワークライフバランスの意識を高め、いきいきと働ける生活の基盤をつくることのできるよう環境づくりや情報を提供しています。

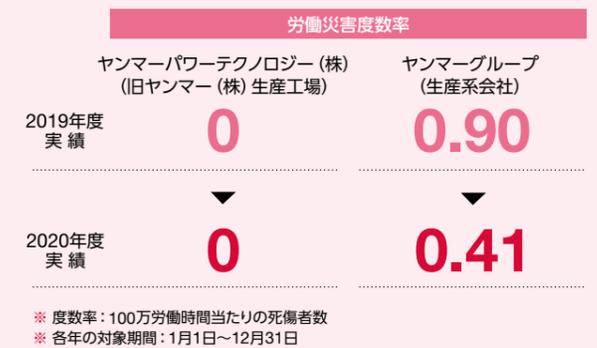
- ①時間外労働の削減
- ②休暇取得の促進
- ③多様な働き方の促進

### 労働安全衛生

#### 従業員の安全衛生の確保

ヤンマーグループでは、従業員が安全に働ける職場を確保するため、安全衛生活動を行っています。各拠点では、安全衛生委員会を設け、安全パトロールやリスクアセスメントなど安全衛生管理の強化を実施し、KYT(危険予知トレーニング)や安全体感訓練など各種安全教育を行い、安全意識の向上による労働災害の防止に努めています。

#### 実績 (2019年度 / 2020年度)



# VISION 03

食の恵みを安心して享受できる社会

## 目指す姿

おいしく安全で栄養豊富な食料を、世界中いつでもどこでも。  
あらゆる人が、もっと健やかに生活できること。

### VISION-03の社会を実現するために貢献できる主な製品・サービス



#### 食のバリューチェーン

営農計画をはじめ、土づくり、育苗、移植、収穫から販路の獲得までをつなぐ、食のバリューチェーンをトータルでサポートし、農業を魅力ある産業“食農産業”へと発展させていきます。

### 関連する主なSDGs



### VISION-03に関連し解決すべき社会課題

<p><b>グローバル 이슈</b></p> <p><b>人口問題</b> 2050年に世界の人口が<b>97億人</b>超 <small>※United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division (2019). World Population Prospects: The 2019 Revision. (2019)</small></p> <p><b>食料問題</b> 食料供給が2050年に<b>1.7倍</b>必要(2010年比) <small>※農林水産省「2050年における世界の食料需給見通し」(2019)</small></p>	<p><b>個別テーマ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●大規模農業への対応</li> <li>●担い手農家の効率化による生産性向上 <b>海外</b></li> <li>●災害や天候不順による農産物への影響</li> <li>●後継者不足による離農 <b>国内</b></li> </ul>
--	---

## 事業活動を通じた貢献



ヤンマー船用システム株式会社

### 養殖マグロなどの計数を高精度に行える「自動魚数カウントシステム」を開発し、養殖作業の効率化に貢献

関連する主なSDGs



#### 顧客の課題

水産資源の需要拡大にともない、世界における漁業、養殖業の生産量は増加し続けています。そうしたなか、現在行われている養殖業の計数作業は多大な労力が必要となっています。たとえば、クロマグロの養殖では、天然の小型マグロ(ヨコワ)を畜養種苗として受け入れる際、世界的な資源管理のため正確な数の報告が求められています。ただ、現在マグロの計数方法は、撮影した水中映像をもとに目視で計測する方法が主流で、効率化がひとつの課題となっています。

#### ソリューション

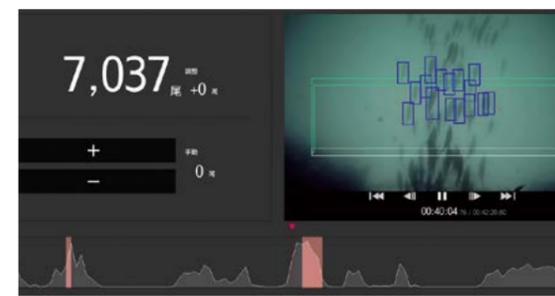
ヤンマー船用システムが開発した「自動魚数カウントシステム」は、「目視での計数作業が大変」という養殖業の顧客からの声をきっかけに、2017年からプロジェクトが始まりました。

コアとなる画像認識と処理技術は、ヤンマーグループの中央研究所が独自開発し、専用設計の水中カメラおよび画像処理PCなどのハードウェアを含めた統合システムを開発しました。

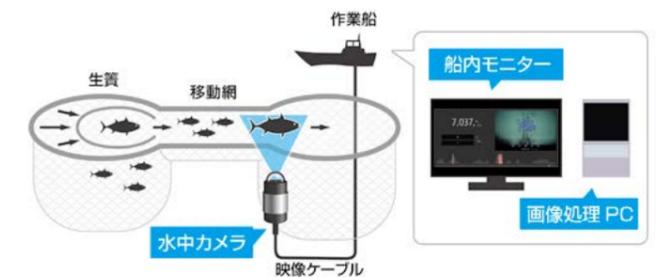
「自動魚数カウントシステム」は、映像データをもとに学習する機械学習を活用しています。さまざまな環境下においても画像認識精度を安定させるため、データセットを拡充させたうえで機械学習を進め、想定している最適な条件下では98%以上の精度でマグロの自動カウントに成功しました。

自然環境下で確実に自動計数処理を行うための「最適な条件下」により近づけるため、明るさやカメラ角度の調整が可能です。また、システムとして魚影を認識しづらい状況になったとき、操作画面上に状況を表示したり、自動処理した映像を作業者が手動で補正する機能を搭載したりすることで、効率的に正確な計数ができるよう考慮したシステムとなっています。

また、システム機材一式を養殖の現場で使用でき、水中の様子を撮影しながら、リアルタイムでの計測も可能で、現場で解析・計数結果の確認ができるようになっています。



自動魚数カウントシステムの画面イメージ



自動魚数カウントシステムの活用イメージ

#### 提供価値

養殖業における作業の効率化に貢献することで、養殖業そのものの持続可能な発展につながるとともに、適切な海洋資源(天然魚)の維持にも貢献できます。



ヤンマーアグリ株式会社

## 重量野菜のかぼちゃ収穫作業を手作業から解放する加工業務用かぼちゃ収穫機を開発

関連する主なSDGs



### 顧客の課題

重量野菜であるかぼちゃの収穫作業は、機械化が進んでおらず、茎葉とかぼちゃを切り離す作業から、鉄コンテナへの収容作業に至るまで、そのほとんどが手作業で行われています。また、生産者の高齢化も進んでいることから、こうした重労働を行える作業者の確保は困難となっており、作付面積や生産量は減少傾向にあります。

### ソリューション

ヤンマーアグリは、かぼちゃ収穫作業の軽労化を図るため、トラクター牽引式の加工業務用かぼちゃ収穫機を訓子府機械工業と共同開発し、2021年9月から販売を開始します。

かぼちゃ収穫機は、うね上で風乾しておいたかぼちゃを、コンベアとパドルで拾い上げ、傷つけることなく搬送、収容することができます。さらに、コンベア先端部に配置した回転刃で茎葉を切断するため、収穫機へ茎葉が絡みつかず、収穫作業がスムーズに行えます。また、チルト機構を採用することにより、収容用鉄コンテナの角度が調整可能となり、鉄コンテナに収容されるときのかぼちゃへのショックを和らげ、傷や割れなどを軽減します。すべての作業を手作業で行う場合に比べ、かぼちゃ収穫機の作業能率は約3倍となり、収穫作業における負荷を大きく軽減できます。

なお2021年度は、北海道地区限定のモニター販売のみとなります。



加工業務用かぼちゃ収穫機「KYP-900」

### 提供価値

生産者の高齢化や人手不足の解決を通じて、国内における質の高い生産物の収穫量アップや、食料自給率の向上に貢献できます。

より詳しい情報はこちらからご覧いただけます  
<https://www.yanmar.com/jp/about/csr/social/>



## CSR活動報告

### 地域社会

#### コミュニティ

##### 食育教室でダイコンとカブを収穫

ヤンマーシンビオシス (YSS) 栗東事業所は、栗東市農業振興会が主催する「食育教室」に参画し、地元の園児と小学生が事業所のスタッフと一緒に種をまき、草取りをしてダイコンとカブを育ててきました。野菜は順調に育ち、2020年11月に無事、収穫を迎えることができました。

収穫日当日は地元の園児と小学生が時間ごとに分かれて訪れ、計150人以上が参加するとともに、YSSの白藤社長も収穫に参加しました。スタッフが収穫の仕方を教えると、子どもたちはわいわいと賑やかにダイコンとカブを一生懸命引き抜き、「重いー!」と言いながらも我慢そうに持ち上げる子もいました。収穫したダイコンとカブは子どもたちに持ち帰ってもらいましたが、なかには「シチューを作ってもらおう!」と、採ってすぐにメニューを決め、嬉しそうにしている子もいました。

YSSは、今後も「食育教室」への参画などを通じて、子どもたちの豊かな食生活や、農業への興味、関心を喚起する活動に取り組んでいきます。



収穫の様子

#### 次世代育成活動

##### 子ども絵画展

ヤンマーは、子どもたちがふるさとの素晴らしさを発見することを通じて、水と土への関心を高めてもらうことを目的に、全国水土里ネット（全国土地改良事業団体連合会）、都道府県水土里ネット（都道府県土地改良事業団体連合会）が主催する「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展に協賛しています。

第21回（2020年）には全国から4,883点の応募があり、

農林水産大臣賞以下入賞32点、入選158点が決まり、ヤンマーアグリ賞には友松結花さん（福岡県みやこ町立黒田小学校5年生）『あせをかいておいしいお米ができますように』を選出しました。



福岡県みやこ町立黒田小学校5年生の友松結花さんの作品『あせをかいておいしいお米ができますように』

##### ヤンマー学生懸賞論文・作文

ヤンマーは、次世代を担う若者たちに農業と農村の未来について自由な発想から論じてもらうことを趣旨として、1990年から「ヤンマー学生懸賞論文・作文」の募集を行っています。

第31回となる2020年は、引き続き「“農業”を“食農産業”に発展させる」をテーマに、直接農業に関わる内容のみならず、経済、流通、資源循環、自然科学、健康福祉、栄養科学、ICTなど、食農産業に関わるさまざまな分野に募集範囲を広げ、独自の構想にて多くの応募をいただき、全国から論文44編、作文406編の応募がありました。論文の部の大賞は「教育産業に参入する『畑の共生教室』—食農福教育プログラムの開発—」（新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 4年 遠藤菜夏さん）、作文の部の金賞には「0から1へ」（岩手県立農業大学校 農産園芸学科 野菜経営科2年 菅谷勇太さん）がそれぞれ選ばれました。

近年、農業を取り巻く環境が大きく変化するなか、ヤンマーグループは持続可能な農業を目指し、農作物の生産からその先にある加工、流通などを含めた“食”に対するソリューションの提供や、生産物の高付加価値化などに取り組んでいます。これからも、論文・作文の活動を通じて、次世代を担う皆さんと一緒にさまざまな農業・食料生産のあり方について考えていきます。



論文の部での入賞者の皆さん

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第31回の入選発表会はオンラインにて実施

# VISION 04

ワクワクできる心豊かな体験に満ちた社会

## 目指す姿

仕事も余暇も心ゆくまでぞんぶんに愉しめる毎日を実現。  
あらゆる人の生活のクオリティを高めていくこと。

### VISION-04の社会を実現するために貢献できる主な製品・取り組み



#### ヤンマーミュージアム

「やってみよう!わくわく未来チャレンジ」をコンセプトにしたチャレンジミュージアム。  
ワクワクするような体験を通じて子どもたちのチャレンジ精神を育みます。



#### フィッシングボート

クラス最大級のフィッシングスペース、  
新型電制エンジンの搭載および快適な  
居住空間等、実際のフィッシングシー  
ンに適した仕様を装備しています。



#### 水上パーソナルクラフト [Wheeebo]

「誰でも、自由に、ワクワクできる」を  
コンセプトにしたまったく新しい水上  
パーソナルクラフト。円形のボード上  
での体重移動とコントローラーの簡単  
操作で、水上での楽しみ方を無限に広  
げます。

## 事業の枠を超えた活動での貢献



### 株式会社セレッソ大阪

#### サッカーを通じて最高のワクワクを届け、人々や地域を元気にするクラブに

セレッソ大阪は、大阪市と堺市をホームタウンとし、地域に根差したプロサッカー  
クラブとして、2017年にはルヴァンカップ、天皇杯の2冠を達成。今後も地元にとつ  
て永続的に欠かせない存在になることを目指して、地域住民の方々はもちろん、パート  
ナー企業、サポーター、子どもたちに至るまで幅広く、サッカーを通じて夢や希望、  
そして最高のワクワクと感動を届けていきます。また、2021年7月には、リニュー  
アルしたセレッソ大阪のホームスタジアム「ヨドコウ桜スタジアム」が完成。スタジア  
ム全体の一体感が生まれる新しいスタジアムで観客を魅了しています。

また、セレッソ大阪はパートナー企業と共に地域社会の課題解決にも積極的に取  
り組んでいます。代表的な活動の一つとして、大阪市における小学生の読解力向上  
への取り組みに貢献するため、2018年から大阪市立図書館との協働で読書手帳を  
作成しています。夏休みの期間中に一定数の本を読むと、抽選でステッカーやノー  
トなどのセレッソグッズやホームゲーム招待券がプレゼントされる活動です。



スタジアム内ピッチ



読書手帳

### ヤンマーホールディングス株式会社

#### サッカーを通じた東南アジアの人々の豊かな暮らしの実現に取り組んでいます

ヤンマーは、東南アジアの人々の豊かな暮らしの実現に向けて農業、漁業、建  
設業分野で貢献していますが、サッカー人気の高い東南アジアでサッカーを通じて  
お客様と感動を分かち合い、共に成長することを目指して、各国代表が参戦する  
ASEAN最大のサッカー大会「東南アジアサッカー選手権」や「ベトナム代表」[BGパ  
トゥム・ユナイテッド]の協賛を実施しています。特にベトナムでは2015年からセレッ  
ソ大阪の協力のもと、代表公式練習場「YANMAR FIELD(ヤンマーフィールド)」の  
天然芝改善に取り組み、男女とも東南アジア最強となったベトナム代表チームの成  
長に貢献しています。



YANMAR FIELD

## 社員の声

#### サッカーを通じたコミュニケーション活動に取り組んでいます

当社は、国境や人種、言葉、育ってきた環境を越え、喜びの瞬間を分かち合うことができるサッ  
カーの可能性を信じ、現在は、セレッソ大阪の他に、ベトナム代表、BGパトゥム・ユナイテッドの  
サポートや東南アジアサッカー選手権のスポンサーを行っています。当社の事業活動や想いを広  
く知っていただくために、サッカーを通じたコミュニケーション活動を積極的に展開しており、こ  
れからもグローバル企業として世界各地で成長を目指す当社にとって、「組織性」と「グローバ  
ル性」を持つサッカーは重要な存在であり続けると考えています。



ヤンマーホールディングス株式会社  
クリエイティブ部  
スポーツビジネス室室長

原山 壮太



## ヤンマーホールディングス株式会社

### 「第36回アメリカズカップ」の オフィシャル・マリン・サプライヤーとして大会運営に参画

ヤンマーホールディングスは、世界のトップセーラーが集う最高峰のヨットレース「アメリカズカップ」の第36回大会においてオフィシャル・マリン・サプライヤーとなり、すべてのレースをサポートするなど、これまで以上に大会に深く参画しています。

ヤンマーグループは、2013年に開催された、第34回大会でアメリカのオラクル・チームにマリンエンジンを提供するオフィシャル・テクニカル・パートナーになって以降、2017年の第35回大会ではオフィシャル・マリンエンジン・パートナーを務めました。

近年、レース艇のハイテク化と高速化が進むなか、アメリカズカップの成功を支えるレース運営艇には、高性能で耐久性・信頼性の高い、環境に配慮したパワーソースが求められています。第36回大会では、ヤンマー船用システムのディーゼルエンジンが、オフィシャルボートに搭載され、すべてのレースをサポートするとともに、公式VIPクルーザーとして「X47 Express Cruiser」を提供し、VIPの方々に上質で快適な空間を提供しています。

これにより、当社の優れた技術力、マリンエンジン界におけるプレゼンスの高さをアピールするとともに、この支援を通じて、マリンエンジンのノウハウ、技術のさらなる向上を図っていきます。

アメリカズカップは、1851年にイギリスで開催された第1回万国博覧会エキシビジョンレースを起源とするヨットレースです。このレースの勝者であるNew York Yacht Clubに贈られた「銀の水差し」には「Americas' Cup」と名が付けられ、世界で最も歴史のあるスポーツトロフィーとなっています。これ以降、国の威信をかけたヨットクラブ間のレースとして、170年もの長きにわたり白熱したレースが展開されています。



X47 Express Cruiser



## 社員の声

### 歴史あるアメリカズカップのサポートを通じて革新的な技術開発に挑戦しています

アメリカズカップは、世界で最も歴史のあるスポーツトロフィーです。各国の出場チームは、テクノロジーの限界に挑戦し、勝利を目指します。その長い歴史のなかで、チームは「既成概念にとらわれない」考えを持ち、急速に変化する環境においても適応して勝利を収めてきました。ビジネスにおいても、常に変化する環境に適応し、革新的であることが勝利につながります。フォイリング艇は数年前までは考えられませんでした。船体が水面から離れて走る技術や粘り強さを実現しました。



YANMAR MARINE INTERNATIONAL B.V.  
Director Sales and Marketing

Floris Lettinga

より詳しい情報はこちらからご覧いただけます  
<https://www.yanmar.com/jp/about/csr/social/diversity/>



## CSR活動報告

### 従業員

#### ダイバーシティ&インクルージョン

##### 女性社員が多面で活躍できる 職場環境を整備

ヤンマーホールディングスは、2021年3月末現在、従業員数2,914名のうち、女性社員は552名（18.9%）となっています。

2020年度の新入社員（総合職）における女性比率は16.0%でした。ヤンマーの軸事業はエンジンをはじめとした機械分野で、これらを専門とする女性は少ないですが、社内にはさまざまな役割があるため、多方面での女性の活躍を見据えて採用を行っています。

採用活動においては、女性スカウトも積極的に登用し、就職活動中の女子学生に向け「女性社員との座談会」などを実施しています。2020年度には、ヤンマーホールディングスにて女性社員向けのメンターシップ制度を開始し、先輩社員が対話を通じて後輩社員の疑問解消や成長のサポート、社内ネットワークの形成を支援しています。

##### 管理職への女性登用

現在、ヤンマーホールディングスでの女性の管理職比率は2.3%ですが、人数はここ数年増加傾向にあります。女性の管理職21名（グループ会社社長1名、部長4名、課長16名）が活躍しており、男女平等に評価される制度・風土が整っています。

##### 障がいを抱えた社員が安心して働ける さまざまなサポート体制を構築

ヤンマーグループとして、障がい者雇用を推進していくため、2014年4月にヤンマーシンビオシスを設立し、7周年を迎えました。特例子会社<sup>※1</sup>として、2021年3月末時点で59名の障がいのある方々が元気に働いています。

ヤンマーシンビオシスの「シンビオシス」とは「共に生きる=共生」という意味です。私たちは障がいのある方の個性を生かしながら、自然や社会、地域、多様な人々との共生を大切にしています。

ヤンマーシンビオシスは、「ヤンマーらしさ」を追求するため、農業に関わる「農業ソリューション事業」、ヤンマーグループの社員が働きやすい環境をサポートする「オフィスサポート事業」、小形ディーゼルエンジンの生産に関わる「製造サポート事業」の3つの事業を展開しており、障がいのある社員も安心して仕事ができるよう、さまざまな取り組みを行っています。

同社では、精神保健福祉士、作業療法士の専門資格を持つ社員が所属する健康・サポート室を組織し、障がいのある社員本人との定期的な面談や地域支援機関も交えた会議を通じて、社員の心身のケアに日々より努めています。

さらに、大阪・梅田東地域を四季折々の花で彩る活動や地域清掃を通じて、地域社会に貢献しています。また、特別支援学校や就労移行事業所、企業からの見学を幅広く受け入れ、ヤンマーグループにおける障がい者雇用の取り組みを知っていただく活動を行っています。

2021年3月のヤンマーの組織再編にともない、グループ適用企業が、8社から7社<sup>※2</sup>となりましたが、障がい者雇用率は、2021年3月末現在で現行の法定雇用率を達成し、2.32%となりました。今後も維持、向上に取り組んでいきます。

<sup>※1</sup>「特例子会社」とは、国から特別に認められた制度であり、障がい者の雇用に特別の配慮をした子会社を設立することにより、グループを一つの企業とみなして、雇用率を算定することができる制度  
<sup>※2</sup> ヤンマーホールディングス、ヤンマーパワーテクノロジー、ヤンマーグローバルエキスパート、ヤンマーアグリ、ヤンマーアグリジャパン、ヤンマービジネスサービス、ヤンマーシンビオシス

#### 実績（2019年度／2020年度）



<sup>※</sup> 2021年3月の組織再編によりグループ適用企業が8社から7社に変更となった

## ダイバーシティ&インクルージョンの推進

ヤンマーグループは、ブランドステートメント「A SUSTAINABLE FUTURE -テクノロジーで、新しい豊かさへ-」の実現に向けて、ダイバーシティ&インクルージョンを推進し、イノベーションの創出と新たな価値を社会に提供していきます。

責任者2人による対談は、こちら

Y-media「女性が働きやすい企業へ。ヤンマーが推進するダイバーシティとは?」  
[https://www.yanmar.com/jp/about/ymedia/article/promote\\_diversity.html](https://www.yanmar.com/jp/about/ymedia/article/promote_diversity.html)



### 責任者メッセージ



#### D&I推進により 社員一人ひとりの能力を最大限に発揮させる

企業の持続的な成長を支える原動力となるのは社員です。性別、国籍、人種、宗教など多様なバックグラウンドを持った社員がいきいきと働ける環境づくりが大切です。ダイバーシティには、在宅勤務やフレックスタイムなどの“働き方の多様性”や、“働く場所の多様性”、“働く価値観の違い”なども含まれますが、多様性(ダイバーシティ)をお互いに認め合って、それらが融合(インクルージョン)する「ダイバーシティ&インクルージョン」が大切だと考えています。

多様性に富んだ人材が世界中から集まってネットワーク型組織を組成し、プロジェクトを進めていくことがヤンマーの大きな力になり、イノベーションの創出につながると考えます。社員一人ひとりの価値観に合った活躍の場を提供するとともに、働き方の選択肢を増やして、能力を最大限に発揮できるようにサポートしていきたいと思えます。

ヤンマーホールディングス株式会社  
取締役 チーフヒューマンリソースオフィサー  
人事部長 (CHRO)

浜口 憲路



#### 女性に活躍してもらえる職場環境の実現と 企業風土の醸成が大切

ダイバーシティを推進することで、ヤンマーはより高いパフォーマンスを発揮できる会社になれると考えています。違う観点や価値観を有するメンバーが意見交換することによって新しいモノの考え方が生まれると思っています。

当社は機械メーカーではありますが、それでも女性の管理職が非常に少ないと感じています。女性に活躍してもらうためには、安心して気持ちよく働ける職場環境の実現が必要です。たとえば、子育て中の女性の場合、子どもの年齢によって働ける時間が変わりますので、柔軟な制度設計に変更するとともに、上司や職場の理解が重要になります。また、日本人女性は無意識のうちに何ごとにも控えめになってしまうバイアスが働くことも多いため、女性の能力をしっかりと見て、後押しできる企業風土の醸成も大切だと考えています。

ヤンマーホールディングス株式会社  
取締役 チーフストラテジーオフィサー  
経営戦略部長 (CSO)

長田 志織

## Diversity For YANMAR



『いきいき、ワクワク、SMILE』。心豊かに働く社員はヤンマーグループを支える原動力です。国籍、文化、年齢、性別、ライフスタイルなど多様なバックグラウンドからなる考え方や価値観を持つ社員が、相互に支援・啓発することでイノベーションの創出を実現します。

そして、多様性豊かなメンバーが新たな商品・サービス・ソリューションを創造することで、社会に新たな価値を提供していきます。ヤンマーグループは、ダイバーシティ&インクルージョンを通して、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

## ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けて、 さまざまな取り組みを進めています

### 在宅勤務制度

ヤンマーホールディングスは、多様な人材の活躍と生産性の向上を目的として、2017年10月から在宅勤務制度を導入しています。2020年度には、利用対象者の拡大、在宅勤務制度とフレックスタイム制の併用の実現など、従業員はワークライフバランスを考慮した、より柔軟な働き方を選択することが可能となりました。

### メンターシップ制度

先輩社員が対話を通じて後輩社員の疑問解消や成長のサポート、社内ネットワークの形成を支援するため、ヤンマーホールディングスは、女性総合職社員向け・外国籍社員向けのメンターシップ制度を導入しています。

### 仕事と家庭の両立

多様な社員がいきいきと働き、活躍できる職場づくりのため、男性育児参画推進活動に取り組んでいます。2020年度は、ダイバーシティ西日本勉強会に参加する11社と合同で「男性のための仕事と育児の両立セミナー」をオンラインで開催しました。

## 第三者意見

### CSR報告書2021 (ハイライト版) を拝読して

CSR報告書2021 (ハイライト版) は、昨年度と同様に、ウェブサイトにおける詳細な情報開示から、「A SUSTAINABLE FUTURE」が掲げる4つのビジョンに向けた製品・サービスや事業活動事例を抽出・再編集し、コンパクトに纏める構成になっています。

冒頭のトップメッセージでは、足下の新型コロナウイルスへの対応に言及したうえで、SDGsなど持続可能な社会の実現に向けた課題の解決、特に「脱炭素社会の実現」に貢献する点、「顧客価値創造」を重視する点、またその基盤となるダイバーシティを推進する環境・制度整備を行う点が強調されました。そして、これらの重要課題に向き合う姿勢として、「グループ一体」「結束」といった言葉が繰り返し述べられ、「ONE YANMAR」のキーワードが掲げられた点が印象的です。

後に続く、「A SUSTAINABLE FUTUREの実現とSDGsへの貢献」は、貴社のCSR経営の全体像を示す重要なページです。ミッションステートメントの実践こそが貴社グループのCSRそのものであることが再確認され、社会課題やSDGsと紐付けながら、事業活動を通じて「4つの未来像」の実現を目指す、という基本的な考え方が簡潔に示されています。今年度版では、「ヤンマーと関連が深い社会課題」と「解決に貢献できるテーマ」が具体的に記載され、大きなグローバル課題に言及した昨年度版に比し、より貴社の観点に引き寄せて社会課題が語られている点に好感を持ちました。後段での記述にあるように、これらの諸テーマが、「4つの未来像」とリンクしている点を表現できれば、一層ストーリーが明確になると感じました。

本報告書の中心的なコンテンツとなる具体的な取り組み部分は、4つのビジョンごとに「目指す姿」「製品・サービス」「SDGs」「社会課題」を簡潔に示したのち、「事業活動」および「CSR活動」の事例が紹介されるという、昨年度と同様の統一された構成となっており、非常に読みやすいと感じました。具体的には、脱炭素社会に向けて船舶業界で期待の高まる船用燃料電池システムの実証試験、デジタル/データを活用した「顧客価値創造」として、トップメッセージでも言及されていたヤンマーシナジースクエアの稼働など、「テクノロジーで、新しい豊かさへ。」というブランドステートメントに沿った好事例が挙げられています。またCSR活動報告として、「Diversity For YANMAR」に基づく、ダイバーシティ&インクルージョン関連の記載が拡充された点もポイントです。

日本政府による2050年のカーボンニュートラル宣言以降、サステナブルな社会の構築に向けた国内外の動きが加速しています。貴社においても、「環境ビジョン2030」および「第五次グループ環境中期計画」の見直しが行われているとのこと。貴社の特色あるミッションを起点とした、社会課題の解決に大いに期待するとともに、「4つの未来像」に向けたロードマップやマイルストーンの設定と開示など、ステークホルダーコミュニケーションの一層の高度化を期待したいと思います。



株式会社日本政策投資銀行  
サステナブルソリューション部長

#### 木村 晋 氏

##### ■プロフィール

1995年日本開発銀行(現(株)日本政策投資銀行) 入行。企業金融第5部課長、経営企画部課長、米田コロムビア大学客席研究員、産業調査部次長などを経て、2019年6月より現職。東京大学法学部卒業、米田ロチェスター大学MBA。

### 第三者意見をいただいて

日本政策投資銀行の木村様より、今年度も第三者の立場から貴重なご意見をいただきました。木村様からご意見を頂戴するのは今回で3年目となりますが、持続可能な社会の実現に向けた当社グループの活動を継続して評価いただき、誠にありがとうございます。

トップメッセージにおける“ONE YANMAR”のメッセージとともに、「グループ一体」「結束」という言葉が印象的に述べられているとのこと指摘がありました。新型コロナウイルスの感染拡大や、エネルギー需要の増加、食料不足、気候変動などのグローバルな社会課題の解決に貢献していくためには、グループ全体の力を結集させることが肝要です。当社グループは、テクノロジーをベースとした事業活動を通じて、人間の豊かさと自然の豊かさを両立した“新しい豊かさ”の実現を目指しています。そのためにも、グループ全体が“ONE YANMAR”として結束し、デジタル化などの時代の変化に柔軟に対応しながら成長を続け、お客様と社会の課題解決と新たな価値の提供に取り組んでまいります。

昨年度の報告書で木村様からご指摘いただいた企業理念体系に関する記載省略の反省を踏まえて、今年度の「ASFの実現とSDGsへの貢献」の全体像には、「ミッションステートメントの実践が当社のCSRである」という観点に加えて、グローバルな社会課題に対して「当社が解決に貢献できるテーマは何か」という点について追記しました。木村様には好感を持って受けとめていただいた一方で、「解決に貢献できるテーマ」が「4つの未来像」(VISION) とどのようにリンクしているのか、その表現方法については工夫の余地が残っているとのこと意見をいただきました。次年度に向けてさらに検討してまいります。

4つのVISIONごとに紹介した事業活動の中では、船用燃料電池システムの実証試験や、ヤンマーシナジースクエアについて言及いただきました。脱炭素社会の実現に向けた取り組みや、顧客価値創造企業への進化に対して、木村様から大きな期待をお寄せいただいております。その期待に沿うべく、今後もより一層努力してまいります。さらに、CSR活動報告では、ダイバーシティ&インクルージョン(以下、D&I) 関連の記載拡充も評価いただきました。“ONE YANMAR”として顧客価値を創造していくうえで、D&Iの推進は欠かせないと考えており、その実現に向けてさまざま施策を実施してまいります。

2050年カーボンニュートラル宣言や2030年温室効果ガス排出量46%削減(2013年度比)の表明などの動向を踏まえて、当社では新たなグループ環境ビジョンの策定や、中期環境計画の見直し作業を進めています。環境分野に限らず、さまざまな社会課題の解決に貢献できるように、「4つの未来像」の実現に向けた具体的なロードマップやマイルストーンの作成も今後の課題と認識し、引き続き邁進してまいります。



ヤンマーホールディングス株式会社  
代表取締役

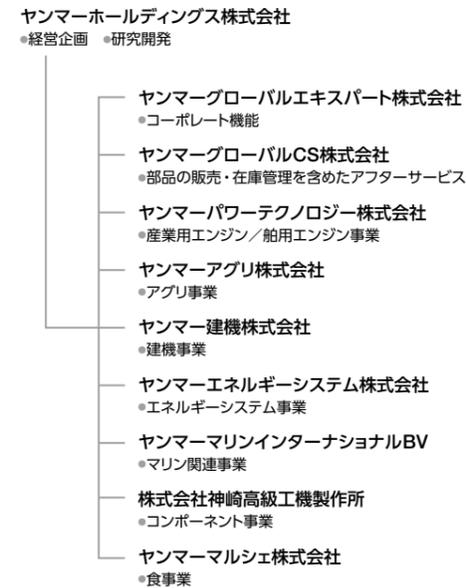
#### 森本 繁

会社概要

ヤンマーホールディングス株式会社

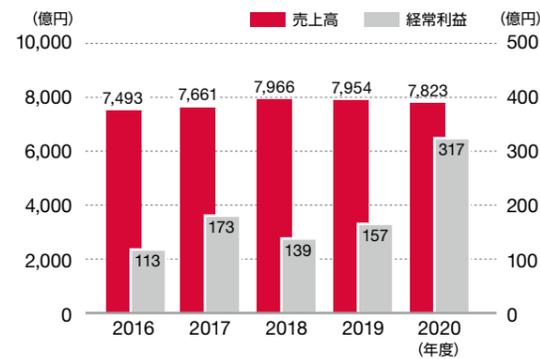
英文商号	YANMAR HOLDINGS CO., LTD.
本社	大阪市北区茶屋町1-32 YANMAR FLYING-Y BUILDING
東京支社	東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX北ウイング18F
創業	1912年(明治45年)3月22日
設立	2013年(平成25年)4月1日
資本金	9,000万円(2021年3月31日現在)
社員数	20,744名(2021年3月31日現在) ※ヤンマーグループ全従業員数

主要グループ会社 (2021年4月1日現在)

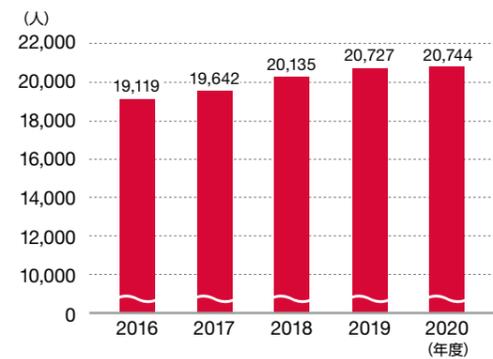


財務ハイライト (2021年4月1日現在)

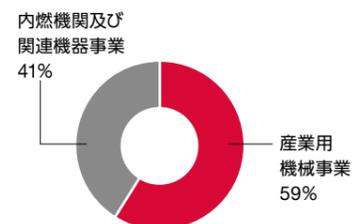
売上高・経常利益の推移(連結)



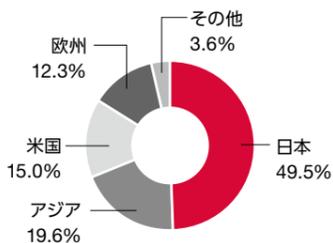
従業員数の推移(連結)



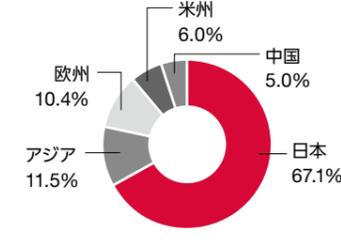
セグメント別売上高比率 (2020年度)



地域別売上高比率 (2020年度)



地域別従業員比率 (2021年3月31日現在)



ヤンマーグループネットワーク (2021年4月1日現在)

日本

- コーポレート機能
  - ヤンマーグローバルエキスパート株式会社
- 部品・サービス事業
  - ヤンマーグローバルCS株式会社
- アグリ事業
  - ヤンマーアグリ株式会社
  - ニューデルタ工業株式会社
  - ヤンマーアグリジャパン株式会社
  - ヤンマーグリーンシステム株式会社
  - ヤンマーヘリ&アグリ株式会社
  - セイレイトータルサービス株式会社
- 建機事業
  - ヤンマー建機株式会社
- エネルギーシステム事業
  - ヤンマーエネルギーシステム株式会社
  - ヤンマーエネルギーシステム製造株式会社
  - ヤンマー発電システム製造株式会社
- エンジン事業
  - ヤンマーパワーテクノロジー株式会社
  - ヤンマーキャストテクノ株式会社
  - ヤンマーエンジニアリング株式会社
  - ヤンマー製造サポート株式会社
  - ヤンマー船用システム株式会社
  - 玄海ヤンマー株式会社

- マリン関連事業
  - ヤンマーマリンインターナショナルアジア株式会社

- コンポーネント事業
  - 株式会社神崎高級工機製作所

- 食事業
  - ヤンマーマルシェ株式会社

- その他
  - ヤンマー沖縄株式会社
  - ヤンマークレジットサービス株式会社
  - ヤンマー情報システムサービス株式会社
  - 株式会社ヤンマービジネスサービス
  - 株式会社セレッソ大阪
  - 一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ
  - ヤンマーシンビオス株式会社
  - ヤンマーeスター株式会社
  - 興亜株式会社
  - 八重洲地下街株式会社
  - セイレイ興産株式会社
  - 一般社団法人 ヤンマー資源循環支援機構
  - 公益財団法人 山岡育英会
  - 一般財団法人 山岡記念財団
  - ヤンマー健康保険組合
  - ヤンマー企業年金基金
  - ヤンマーアグリジャパン企業年金基金
  - ライステクノロジーかわち株式会社
  - わくわくパーククリエイト株式会社
  - ヤンマーベンチャーズ株式会社

海外

北米・中南米

- YANMAR AMERICA CORPORATION
- TUFF TORQ CORPORATION
- TRANSAXLE MANUFACTURING OF AMERICA CORPORATION
- YANMAR MASTRY ENGINE CENTER LLC.
- YANMAR MARKETING AMERICA.LLC
- YANMAR SOUTH AMERICA INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.
- ASV HOLDINGS INC.

欧州

- YANMAR EUROPE B.V.
- YANMAR MARINE INTERNATIONAL B.V.
- VETUS B.V.
- YANMAR NORGE A.S.
- YANMAR SVERIGE A.B.
- YANMAR CONSTRUCTION EQUIPMENT EUROPE S.A.S.
- YANMAR ITALY S.p.A.
- YANMAR R&D EUROPE S.R.L.
- YANMAR EQUIPMENT IBERICA, S.L.
- HIMOINSA S.L.
- RMB AG
- YANMAR RUS LLC
- YANMAR TURKEY MAKINE A.Ş.
- YANMAR COMPACT GERMANY GMBH
- YANMAR FRANCE S.A.S
- YANMAR ENERGY SYSTEM EUROPE GMBH

アジアパシフィック

- YANMAR MANAGEMENT (SHANGHAI) CO., LTD.
- 洋馬発動機(上海)有限公司
- 洋馬発動機(山東)有限公司
- 洋馬農機(中国)有限公司
- YANMAR (SHANDONG) R&D CENTER CO., LTD.
- YANMAR ENGINEERING (HK) CO., LTD.
- YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY (KOREA) CO., LTD.
- YANMAR INTERNATIONAL SINGAPORE PTE.LTD.
- YANMAR ASIA (SINGAPORE) CORPORATION PTE. LTD.
- YANMAR S.P. CO., LTD.
- YANMAR CAPITAL (THAILAND) CO., LTD.
- YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY VIETNAM CO., LTD.
- YANMAR BOAT MANUFACTURING VIETNAM CO., LTD.
- YANMAR PHILIPPINES CORPORATION
- YANMAR MYANMAR CO., LTD.
- PT. YANMAR DIESEL INDONESIA
- PT. YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY MANUFACTURING INDONESIA
- PT. YANMAR INDONESIA
- PT. YKT GEAR INDONESIA
- YANMAR INDIA PRIVATE LIMITED
- YANMAR COROMANDEL AGRISOLUTIONS PRIVATE LIMITED
- INTERNATIONAL TRACTORS LIMITED
- YANMAR KOTA KINABALU R&D CENTER SDN. BHD.
- YANMAR ENERGY AUSTRALIA PTY. LTD.
- YANMAR ENGINE MANUFACTURING INDIA PRIVATE LIMITED

**YANMAR**

発行元

**ヤンマーホールディングス株式会社**

お問い合わせ先

**ヤンマーグローバルエキスパート株式会社**

CSR部 リスクマネジメントグループ

〒530-8311 大阪市北区茶屋町1番32号

YANMAR FLYING-Y BUILDING

Tel:06-6376-6258 Fax:06-6373-9272

<https://www.yanmar.com>